

## インターバンクの声（2015年1月8日）

欧州中央銀行（ECB）による本格的な量的緩和策導入の可能性が高まったとして、元気のなかった欧州主要各国の株式市場にもようやく纏まった買いが入ったようだ。それでも ECB による量的緩和策の導入観測はユーロにとっては引き続き売り材料。ニューヨーク市場後半での若干の買戻しは、ギリシャが緊縮財政を順守すれば債務の支払い条件を緩和することも検討するとしたドイツ議会関係筋の話や前日の同国がギリシャのユーロ圏離脱に向けた準備を行っているとする報道が否定されたためだ。昨年夏以降のドル円が20円程も円安が進んだのも激しいが、ユーロ・ドルも18フェニック（＝1800ポイント）以上とドル円に負けず劣らずの大変動だ。ドル円相場は120円を少し超えたところで足踏み状態となっている感もあるが、2010年6月の安値を割ってきたユーロ・ドルは、2005年終盤の1.16ドル台を指しているように見える。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。